

リンゴの樹勢及び樹体栄養と白紋羽病のり病性

研究のねらい

白紋羽病は一般に過着果樹で発生しやすいことが経験的に知られている。このことは樹勢衰弱が発病の引き金になる可能性を示唆している。そこで、樹勢及び樹体栄養（特に澱粉含量）と病原菌伸展の関係を明らかにし、本病防除の参考に供する。

研究の成果

樹勢の異なるM.26台ふじ9年生を16樹供試し、根に白紋羽病菌を接種して腐敗部の長さを調査した。また、一方では供試樹の新しょう長、幹周、根の澱粉含量を調査し、腐敗程度との相関を調査した。結果は以下のとおりである。

1. 新しょう長の長い樹ほど根の皮部腐敗の長さが短く、また、幹周肥大率の大きい樹ほど根の皮部及び木部腐敗の長さが短かった。
2. 根の澱粉含量の多い樹ほど根の木部腐敗の長さが短かった。なお、根の澱粉含量は平均新しょう長の長い樹で多かった。
3. 以上の結果から、新しょうの伸長、幹周肥大が良好で根の澱粉含量の多い樹では白紋羽病の発病が抑制されることが明らかになった。

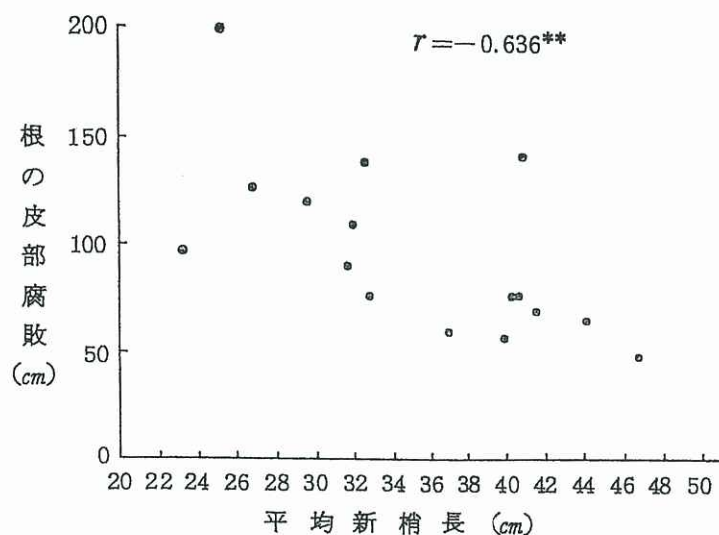


白紋羽病の被害根

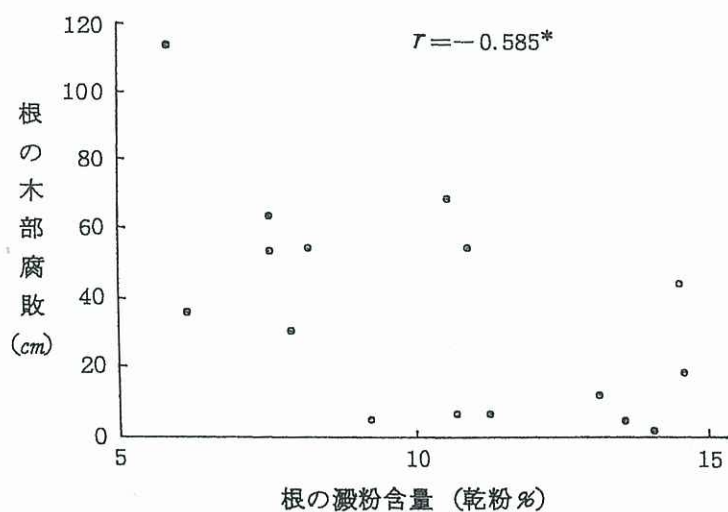


白紋羽病の被害樹

主要な試験データ



第1図 平均新梢長と白紋羽病のり病性



第2図 根の澱粉含量と白紋羽病のり病性

発表資料

1. 化学部 (1988). リンゴの樹勢及び樹体栄養と白紋羽病のり病性. 昭和63年度指導参考資料: 86-87.
2. 青森りんご試ほか (1990). リンゴわい化栽培における多発生病害の総合防除法. 東北地域重要新技術研究成果 No.9: 129-132.